

2021年度 我が校の学ぶ力向上策(実施計画)

【市町 目標】

○学校と連携して「読み解く力」の育成に向けた取組を推進し、子ども一人ひとりの学びに向かう力を高める。
 重点1:子どもの実態を把握し、学習状況に応じた指導・支援を行い、子ども達が自らの学びを自覚できる授業作りの取組の推進
 重点2:子どもが他者とあたたかく関わり主体的に学ぶための学習習慣の定着と、学んだことを活用していくための学習時間の確保
 重点3:全教職員が課題を共有・認識し、学校全体で組織的に実践する取組の推進

【学校 目標】

○一人ひとりが喜びと充実感を味わえる学校となるよう、子どもたちの「読み解く力」の育成に向けた取組を推進し、「学ぶ力」を高める。
 重点1:子どもの実態を把握し、学習規律と基礎・基本を身に付けるとともに、学びに必然性と喜びを感じられる授業づくりを目指す。
 重点2:子どもたちが、培った力を活用し思考力や判断力や表現力を育成できるような、あたたかで前向きな学級集団づくりに努める。
 重点3:学ぶ力向上と授業改善の推進に向けて校内研究に主体的に取り組み、課題解決に向けて全教職員で組織的に実践する。

【現状と課題】

○視点1:学習に真面目に取り組む基礎・基本となる学力はおおむね身につけているが、やや主体性が乏しく、論理的に思考する力や自分の考えを表現する力が弱い。自尊感情も低い傾向にあり、受け身で「できた実感・納得」が得にくい実態とも関わっていると考え。引き続き、学習の支えとなる、基本的な生活習慣や学習規律の確立にも努めたい。
 ◎視点2:相手の考えや問題の意図を正しく読み取って、学習したことを活用し課題を解決しようとする力(読み解く力)が十分身につけていない。授業中に各自の考えを全体で場で交流し合い、深め合う力を高めたい。
 ○視点3:校内研究にどの教員も熱心に取り組む姿が見られる。事後研究会でも活発に話し合いが進められる。先進的な方法やより良い実践を他校や外部講師からさらに学んでいきたい。また、日々の活動中の気づきや研修などで学んだことを職員間で共有できるようにしたい。

取 組		
視点1 学びを支える基盤づくり	視点2 読み解く力をつける授業と学習集団づくり	視点3 子どものために一丸となって 取り組む学校づくり
<p>【取組事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習基盤づくり→全校で統一精選した学習ルールの徹底と、基礎的・基本的な知識・技能の習得。 ○ノート指導→学習の足跡のわかるノートづくりを系統的に指導し、学期ごとに全員のノート展を行う。 ○新聞記事を活用し、学年に応じたためあてを持たせながら読む力・書く力を伸ばす。 ○読書タイムや詩・名文の暗唱、朗読集会などを通して、言葉に親しめるようにする。 ○ICTを有効に活用し、授業改善を行う。 ○学力・学習状況調査などの結果を分析し対策を考えたともに、子ども自身による復習の習慣をつける。 	<p>【取組事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○活用力を高める指導に努める→適切な課題の設定と解決方法の具体的な指導。やり方や考え方をまとめたり、つないだりする教師の役割を意識する。 ○思考力・判断力・表現力を育てるための言語活動を意識した授業を行う。授業のふり返りを質的に高める。 ○学び合い、高まり合う学習集団づくりのため、話し合いを深められるようなペア・グループ学習を取り入れる。 ○「人権の花」などの取組を重視し、違いに優しい仲間づくりを目指す。 ○異年齢活動や子ども会活動、学級活動などで子どもの自治的活動を進め、個々の居場所づくりにつながり、ひいては自己肯定感が高まるようにする。 	<p>【取組事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの主体的な学びの手法を常に探究する教職員集団をつくる。 ○授業研究会や講師招聘による校内研究会を活発に行い、授業改善に努める。 ○算数科の授業を2人体制で行い、どの子どもも「わかった」「できた」喜びを味わえるようにする。 ○研修で学んだことを伝達し合ったり外部講師から新しい知識や技能を学んだりし、指導力の向上を図る。 ○放課後学習を充実し、「基礎基本コース」と「発展コース」を設ける。 ○日常的に教え合い、学び合いに努めるとともに、OJTを取り入れた研修を行う。

その他 取組事項

○家庭学習の習慣化→学年に合った時間(学年×10分+10分)の家庭学習を習慣づける。
 ○子どもの委員会活動や図書館司書、家庭と連携し、読書活動を推進する。
 ○基本的な生活習慣の育成→ゲーム・メディアに対する自己管理能力を家庭・学校が連携して取り組む。
 ○漢字・計算・音読を基本としつつも、子ども自身が創意工夫する自主的な家庭学習への移行を進める。
 ○早寝、早起き、朝ご飯、挨拶、運動を習慣づける。

取組の評価

※プランに示した数値目標は、県教育委員会の取組の指標です。学校の評価指標は、それぞれの課題等の状況に応じて設定することが重要です。

	取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
全体		・国語・算数の学習は将来役に立つと思うか ・話し合い活動の成果の実感があるか (学力調査・学びアンケート・1チェック:肯定率の向上)		
視点1	各学年の基礎的・基本的事項の習得 学習規律の確立	・「桜谷小学校8か条」により、全教職員が共通理解して取り組み、子どもの学習に向かう姿勢が変わってきたか。 ・学力調査、漢字検定、評価テストなどでの成果		
視点2	「読み解く力」をつける授業と学習集団づくり	・ペアやグループでの話し合いの内容の変化 ・活動中やふり返りに記述・発言した子どもの言葉の内容 ・評価テストや学力調査の、記述式課題に対する解答の状況		
視点3	校内研修の充実と全校一丸となった取り組み	・OJTや校内研修で積極的に話し合い学びを深められたか。 ・教職員が連携し、「明るく・焦らず・あきらめず」実践できたか。		
その他	メディアとの適切な付き合い方、読書活動の充実 家庭学習の習慣化と内容の深化(読み書き計算と自主学習の両面)	・保護者の声にゲームとの付き合い方に改善が見られたか。 ・読書冊数向上と、読書の質的変化の検証。 ・家庭学習の時間と自主学習の質的な変化		

評価:【達成状況 90%以上→A 70%以上90%未満→B 70%未満→C 時期→1回目:9月 2回目:2月】

今年度の取組の課題

--